

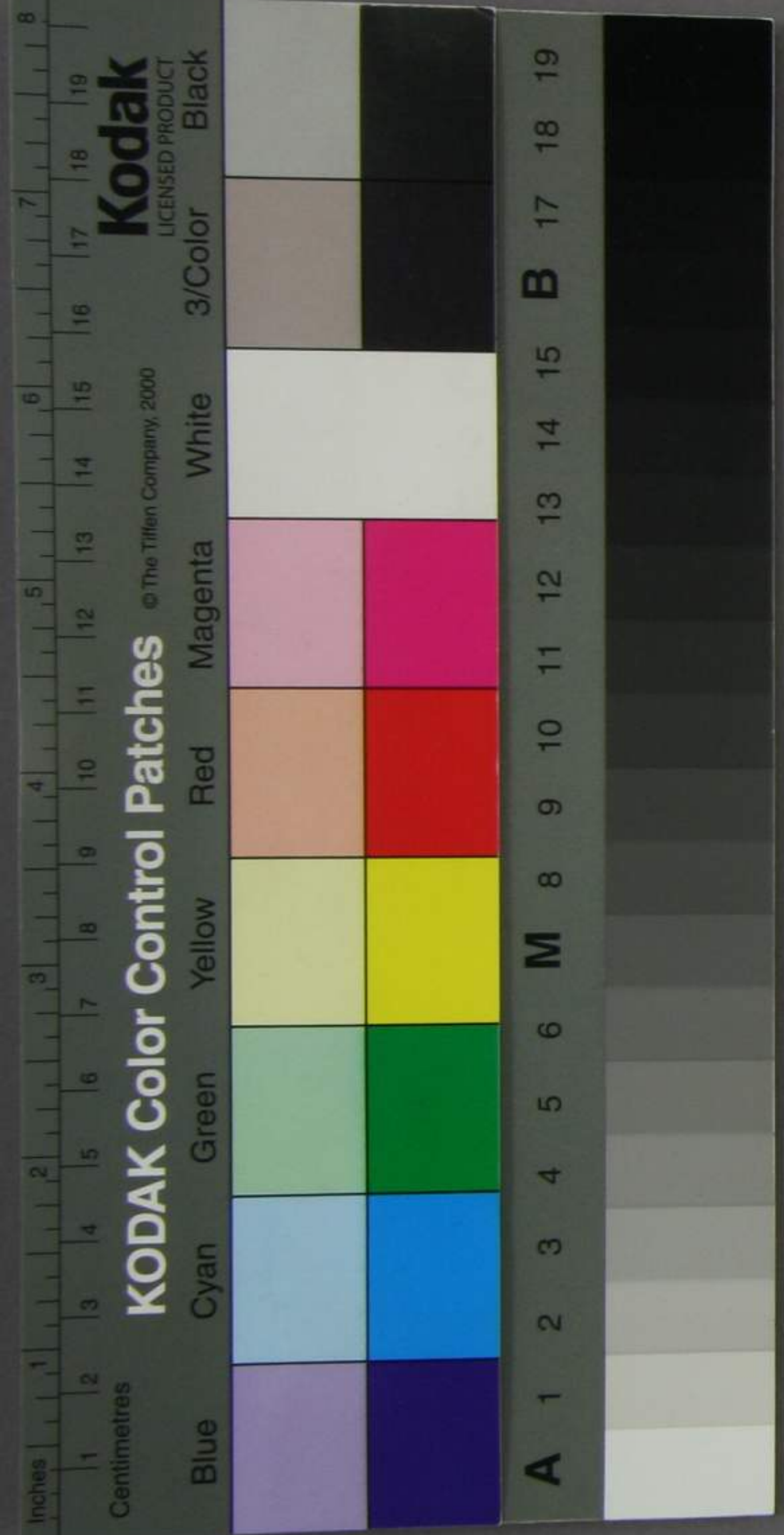
114  
A2339



大藏大臣へ内申書按

大正十一年四月  
隈 侯爵 郵 寄

私共本  
社創立事務ヲ擔當シ日夜勵精從事致居候慶經濟社會  
益非ナラフ感シ本社成立上甚懸念致候ニ付本月初旬一  
意見書ヲ進呈シ内閣諸公閣下ニ申請スル所有之候然レ慶去  
日  
高嶋拓殖務大臣ニ創立委員長安場保和及創立委員岡部  
長職へ御内諭ヲ以テ大ニ社債ヲ募リ將來ノ發達ヲ計ル得策ヲ  
ハキ旨ヲ示サレ本社業務ノ運用ヲ圓滑ナラシムルノ御主意感銘ノ  
至ニ堪ヘス候臺濱總收目ノ命令ニ依ル本社鐵道敷設工事着  
手ノ期限切迫致シ又基隆臺北間及臺北新竹間既設鐵道  
御下附ニ對ス諸般ノ準備モ亦一日ヲ忽ニスヘカラサル場合ニ相成最早  
着手致居候廉ニ有之候ニ付テハ速ニ創業總會ヲ開キ次テ次具  
本金一部ノ拂込ヲ施行シ事業必要ノ用途ニ供スルノ時機ニ際會致候



又御内諭ノ如ク將來大ニ社債ヲ起サントスルモ先ツ會社ノ成立ヲ  
告クルノ後ニマラサハ如何トモ致方無之義我ニ有之候處方今經濟  
社會金融逼迫ノ度甚シク未ク數月以内ニ其回復ヲ豫期ス  
ルニ至ラサルノ悲境ニ陷リ居加之世人ノ種々傳説等ニ傾耳シ  
キ臺灣ニ於テ一般ノ事業ニ對シ投資ヲ危疑スルノ念慮尚ホ  
容易ニ拭却スル能ハサルノ事實アルニ拘ラス單ニ株金拂込ヲ促ス  
トキハ徒ニ衆株主ヲシテ責務ヲ全フセシメサルノ結果ヲ招クノ外  
無之義ト深ク心痛罷在候依テ此際政府ニ於テ臨機御處  
分ヲ仰クノ止ヲ得サル場合ニ遭遇致候就テハ政府ニ於テ特別  
御詮議ヲ以テ左ノ事項ヲ御決行アラントテ請願致候  
一政府ハ今日ヲ豫メ日本銀行ニ金令レテ臺灣鐵道會社  
株式一株ニ金拾貳圓五拾錢ノ拂込ヲ了リタルトキハ之ヲ見

返リ品ニ編入シ特殊ノ割合ヲ以テ抵當トシ金員貸出ヲ為サシムル

事

事項法行

今日ニ於テ豫メ右御令ノ事項ニ關セラルトキハ全國金融ノ機關タル  
諸銀行皆其歸向スル所ヲ知リ隨而衆株主ヲシテ金融ノ疏通ヲ  
得セシムルニ至ルハ信シテ疑ハサル所ニ有之候萬一本請願ノ趣旨御聞  
届相成難キトキハ臺灣總督御命令期限内ニ於テ本社成立  
ノ見込全ク杜絶セシムト確信致候間何卒前述ノ主意御採  
用被成下政府既定ノ御方針ト私共發起ノ精神ヲシテ一貫  
セシメラルニ様奉懇願候也

委員長 氏名

松方大臣へ

(高島拓殖務大臣へ右同文提出ノ事)

理由

客年本社發企ノ初ヨリ今日に至ル已ニ十數月ニ亘ル而シテ其間内地  
經濟社會ノ變動實ニ豫想ノ外ニ出テムルモノアルハ今更言ヲ俟タス  
而シテ臺灣ノ形勢亦世人ヲシテ同島ノ事世ニ投収員スルヲ躊躇セシム  
ノ傾ナルハ我輩ノ認知スル所ナリ加之近頃諸新聞紙ノ本社ニ對シ當々  
諍議ヲ逞フシ所說概々其實ヲ誤コレモ拘ラス社會ハ本社創立事務  
進行ノ如何ヲ知悉セサルヨリ徒ラニ危報ノ念慮ヲ增加セシ、我輩ノ最モ遺  
憾トスル所ナリ依テ常設委員ハ本月三日創立委員會議決ノ結果各托セラレ  
タル範圍内ニ於テ審議ヲ盡シキル七八日頃内閣各大臣及臺灣總督ニ意見  
書ヲ呈シ政府ヲ本社成立ノ爲メ臨機決斷ヲ以テ國庫金ヲ繰合ハ豫定株中ノ  
不足株ヲ引受ラレトテ申請セリ其後諸大臣ヲ歴訪スルハト數回ニ及ビ尚ホ及覆  
纏陳スル所アリシガ去 日高嶋拓殖務大臣ヨリ安場委員長及岡部委員ヲ召シ

本社カ大ニ社債ヲ發行シ事業ノ進行ヲ計ルヘキ旨ヲ内論セラレリ常設委員  
ハ同大臣ノ諭旨ニ基キ熟議スル所アリ又松方大藏大臣大隈外務大臣ヲモ所止  
訪シ其方法ニ関シ稟請スル所アリシカ其結果先ツ本社成立ノ實員ヲ舉クル  
ヲ以テ第一ノ急務トシ次テ猶ホ必要ト認ム場合ニ於テハ社債ノ事ニ及ブノ順  
序當然ナルヘキヲ以テ豫テ臺灣總督ヨリ特許ヲ得タル趣旨ニ依リ東ニ貳拾  
萬株ノ株主ヲ定メ創業總會ヲ開キ第一着ニ株金一部(一株ニ付金拾四  
ヲ拂込マシメ)証據金貳拾五拾ヲ加工拾貳圓五拾ヲ拂込トス)ノ拂込ヲナ  
サシメ會社ノ成立ヲ告ケサルヘカラス殊ニ鐵道敷設工事ノ着手ノ期限迫  
ク迫リ既設鐵道ノ下附ニ對スル諸般ノ準備已ニ歩武ヲ進メツアルヲ以テ  
多額ノ資金ヲ要スル實ニ近キニアルニモ拘ラス目下經濟社會ノ實況  
ヲ觀察スルニ單ニ株金拂込ノ通知ヲ爲スノニテ衆株主ヲシテ其責  
務ヲ全フセシムルハ到底期スヘカラサルノ事情タルヲ信ス故ニ此際特ニ之ニ

應スルノ方法ヲ講究シ以テ本社事業ノ發達ヲ計畫スルノ由ムヲ得サルニ  
至レリ是レ本案ヲ提出シテ大藏大臣ノ臨機處分ヲ請求セシト欲スル所以  
ニシテ果シテ本案ノ主旨ヲ實現セラレハニ至ラハ彼ノ四萬有餘ノ株數ヲ追  
募シ貳拾萬株ニ滿タシムル目的ヲ達スルニ亦甚々困難ナラサルヲ信ス